吉瀬浩一郎町長
二期目就任のあいさつ

令和3年2月19日より、町長として住民の皆さんから2期目の町政の負託をいただきました。今回の結果は、住民の皆さんから「感染症対策と災害対応を迅速に進めてほしい」という意向であったと受け止めています。この声に答えなければなりません。これまで以上に重い責任を感じています。

町政については、さまざまな課題を抱えながらも常に俯瞰的な視点からの舵取りを意識し、町の10年後20年後を展望し、住民の皆さんに説明しながら施策を進めてきました。「他に誇れる多良木町を作っていきたい」という指針のもと、常に進むべき道を確認し、住民の皆さまとともに4年間、認識を共有しながら歩みを止めることなくここまで来ることができたことを感謝しております。

令和2年は、多良木町のみならず人吉球磨10市町村にとって大変厳しい試練の年でした。先が見えない状態での新型コロナウイルス感染症の拡大が続き地域経済の安定的な循環が感染症によって断ち切られた一年でした。今回のコロナ禍と災害復旧においては、さまざまな対応策を思考する中で、行政の限界を感じる場面が幾度もありました。感染症拡大と7月豪雨災害の中にあって「住民の皆さまの命と暮らし」を守ることこそが私たちの仕事と改めて自覚させられた一年となりました。

私たちの職場は疑いようもなくサービス産業です。住民の皆さんから「このごろ職員の対応が良くなったね」と言われるようにと4年間努めてきました。しかし時折住民の皆さんからお叱りを受けることがあります。そんなときは自分の考えが浸透していないことを残念に思います。

少子高齢化と人口減少が凄まじい勢いで地方に広がっています。これからは変化に対応できる町が生き残るでしょう。これまでの四年間、現在の町に何が必要なのかを熟慮し、進み、また立ち止まりながら主要施策を進めてきました。その中で考えておりましたことは、これからの町を支えていく若い力、町の未来を思考し、困難に立ち向かっていく人たち、新しいことに挑戦する人たちをバックアップしていけるような町を皆さまとともに作っていきたいということでした。そのための一般財団法人たらぎまちづくり推進機構の設立であり、熊本大学との包括的連携協定であり、内閣府からの地方創生人材支援制度による大学からの招聘であると考えています。

さらに、頻発する自然災害を受けて、新たに災害から住民の皆さんを守るために災害に強い町づくりをしなければならないという新らたなテーマも生まれました。「災害に強く人にやさしいまちづくり」「時代の要請に答えることのできる行政」を目指し、持続可能な町として残っていけるよう、課題解決のために住民の皆さまのお力をお借りしながら行政サービスの質を高め、町の発展のために全力を傾注したいと考えております。

今後も、職員と一体となり、住民の皆さんの負託にお答えすべく、「活きるちから」「育むちから」「想うちから」をつなぐ町づくりに取り組んでいきたいと考えております。令和3年度もどうぞよろしくお願い致します。